

算数の第7回、テーマは「植木算」です。

ア. 直線上に木を植えていくとき $\boxed{\text{木の本数} = \text{木と木の間の数} + 1}$ です。

イ. 円周上に木を植えていくとき $\boxed{\text{木の本数} = \text{木と木の間の数}}$ です。

イの場合は1本の木と（その直後の）1つの間が対応していると考え、木の本数と間数が等しくなることがわかります。アの場合は直線の両端にも木を植えるので、イと同じように1本の木と1つの間を対応させて考えていくと、最後に木が1本多くなることがわかります。

例題：周囲が80mの池のまわりに5mおきに木を植えます。木は何本必要ですか。

解答： 間数は $80 \div 5 = 16$ イのパターンとなり木の本数も同じなので
16本 …… 答

練習問題：

- ① 池のまわりに6mおきに木を植えたら全部で31本必要でした。この池のまわりの長さを求めなさい。(2013年度B日程)
- ② ある直線上に5mおきに木を植えたところ、33本の木が必要でした。両端に木を植えないとき、この直線の長さを求めなさい。(2009年度A日程)

国語第八回〈解説〉

答えは ① 一心不乱、以心伝心など

② 一日千秋、一日一善など

③ 自画自賛、自業自得など でした。

この問題は特定の四字熟語を答えるのではなく、知っている四字熟語から条件に当てはまるものを答える問題でした。

指定された漢字は一回でもよいし、何回使ってもよいです。

小学校で習う四字熟語をよく覚えておいて下さい。

発音は出てくるのに、漢字が書けなかった人は惜しかったですね。漢字も一緒に覚えておきましょう。